

共通的な基盤技術に関する研究開発ワーキンググループの活動報告・今後の活動内容

1. ワーキンググループの活動報告

本ワーキンググループは、地理空間情報の利活用に資する共通的な基盤技術に関する研究開発の情報交換等を目的に、現在まで 5 回の会合を重ねて、「研究開発マップ」を取りまとめ、公表することとしている。具体的な活動内容は以下のとおりである。

- ① 第 1 回 平成 20 年 11 月 6 日 (木)
 - ・ワーキンググループの趣旨について
 - ・地理空間情報の利活用に係る研究概要について(講演:東京大学 柴崎教授)
 - ・研究開発動向に関する調査の進め方について
 - ・地理空間情報の利活用に関連した技術開発、アプリケーションなどに関するアンケートおよびヒアリング調査の実施(産学対象)とG空間行動プランからの抽出(官対象)
- ② 第 2 回 平成 20 年 12 月 5 日 (金)
 - ・専門家からの情報提供(講演)
 - 「ユビキタスネットワーク」(東京大学 森川博之教授)
 - 「利活用を支える測位技術動向」(東京海洋大学 安田明生特任教授)
 - 「地理空間情報の技術動向」((財)日本測量技術協会 政木英一幹事長)
- ③ 第 3 回 平成 21 年 2 月 26 日 (木)
 - ・専門家からの情報提供(講演)
 - 「仮想化都市空間」(東京大学 池内克史教授)
 - 「高度デジタル道路地図と位置情報の教授について」((社)日本地図調製業協会 飯塚新真氏・谷口 公氏)
 - ・地理空間情報活用に係るアンケート調査結果のまとめについて
 - ・研究開発マップ(案)の検討
- ④ 第 4 回 平成 21 年 4 月 28 日 (火)
 - ・研究開発マップに関する報告書(素案)について
- ⑤ 第 5 回 平成 21 年 6 月 1 日 (月)
 - ・研究開発マップに関する報告書(案)について

2. 今後の活動内容について

今後は、「研究開発マップ」の周知や見直しを行うとともに最新技術の動向の把握や知識の向上のため、以下のとおり、情報発信や意見交換を実施する予定である。

- ① 研究開発マップのフォローアップ
 - ・新技術の進展や新分野への拡大など、必要に応じ、研究開発マップを見直す。
- ② 情報発信
 - ・研究開発マップを紹介するシンポジウムの開催
 - 9月には東京大学、11月にはSPACと協力し、全2回開催する。
 - その他、国際シンポジウム開催についても検討する。
 - ・G空間EXPO(2010年秋開催予定)への参画
 - シンポジウムを開催することなどが考えられる。詳細は、EXPO自体の検討を待って検討する。
- ③ 勉強会
 - ・学識経験者、民間団体等から、研究開発動向や途上国支援等での活用事例を紹介頂き、知識を深める。